

2 地域経済の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成 14 年 11 月）	今回（平成 15 年 2 月）	
総括表現	下げ止まりつつある	下げ止まっている	
住宅建設	緩やかに減少	おおむね横ばい	
雇用情勢	厳しさを増している	依然として厳しい	

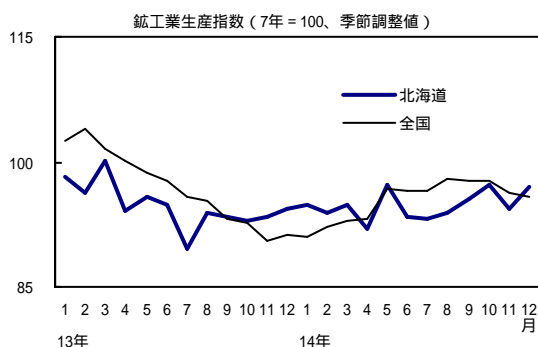
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産業ともに前年を上回っている。

生乳生産は、乳製品向けが減少しているものの、飲用牛乳等向けが増加したことから、前年を上回って推移している。水産業（主要 10 港）は、水揚げ数量はほぼ前年並みであるものの、サンマ、ホッケが高値で取引されるなど、金額は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

食料品・たばこは、牛肉が前年の B S E 問題から回復し、水産加工品が増加するなど、引き続き底固く推移している。紙・パルプは、好調であった印刷用紙、新聞用紙の需要減少により、足元では減少している。窯業・土石は、公共工事関連需要の低迷により、コンクリート、セメントが減少している。金属製品は、鉄骨、アルミ缶等の低迷により、減少傾向で推移している。電気機械は、携帯電話関連や自動車向けの電子部品の需要増により、持ち直しの動きがみられる。



(備考) 平成 14 年 12 月の北海道は速報値。

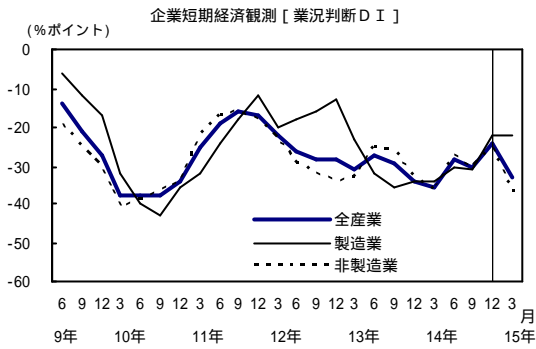
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
食料品・たばこ	24.2	2.9	1.5	6.3	5.2
紙・パルプ	13.1	4.7	3.0	2.2	8.1
窯業・土石	10.8	0.1	3.5	2.6	4.5
金属製品	8.4	8.6	10.7	11.1	2.2
電気機械	8.0	5.1	20.6	17.1	6.3
鉱工業	100.0	0.6	2.8	3.7	0.6

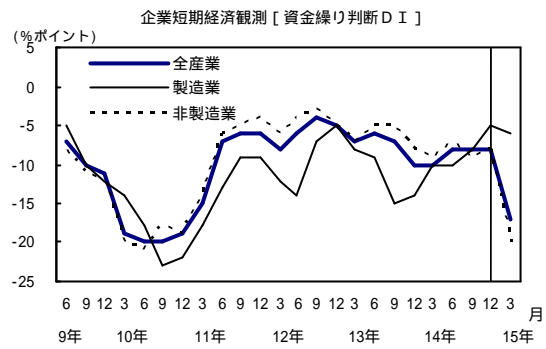
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 10~12 月期は速報値。

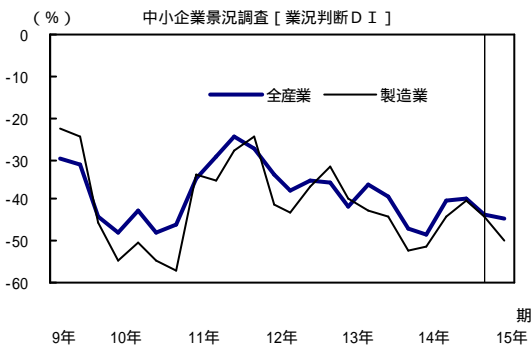
(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年3月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年3月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「原油価格が上昇しているが、石油製品小売業者や運送業者は価格転嫁できないため、利益を圧迫している(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

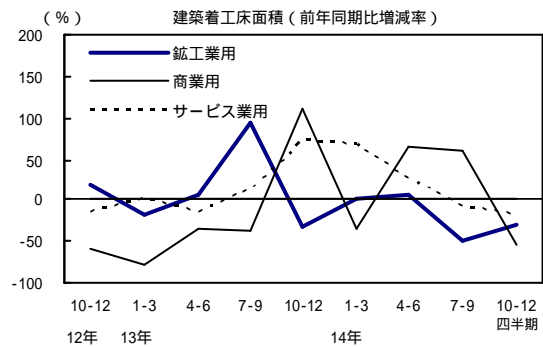
(4) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

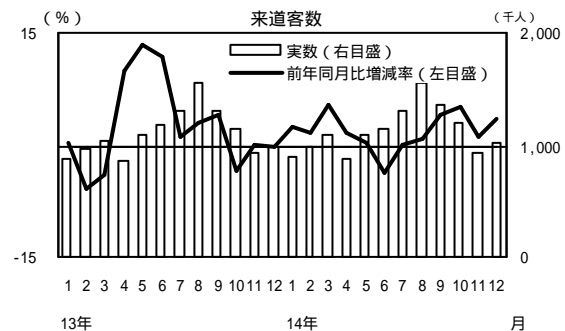
	13年度実績	14年度計画
全産業	12.2	4.3 (0.5)
製造業	17.3	7.6 (7.6)
非製造業	9.4	2.7 (0.3)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は持ち直している。

来道客数(前年同月比)は、中国、台湾、東南アジアを中心とした海外からの観光客が引き続き安定しており、10~12月期は3.5%増となった。足元では、雪まつり期間中の客数は減少したものの、期間の前後を合計すると前年を上回るなど、持ち直している。



(備考)北海道観光連盟調べ。

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

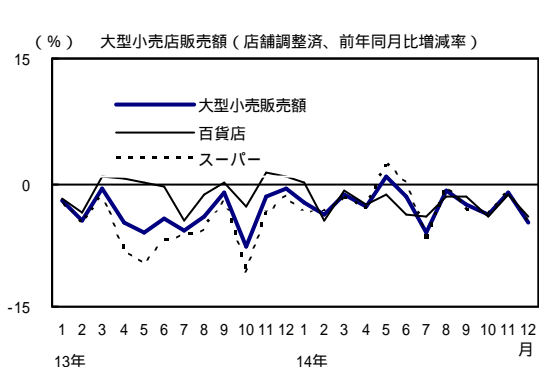
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、11月に既存店舗の増床やプロ野球優勝セールにより一部地域に好調な動きがみられたものの、歳末商戦は低調であった。10～12月期を通じて、主力の衣料品で子供服が好調であったものの、重衣料が伸び悩んだことなどから、前年を下回って推移している。

スーパーは、12月の商戦においても主力の飲食料品の伸び悩みが続いたことや、商品価格の下落傾向から、前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査（1月調査）[家計動向関連DI（現状判断）]

「客数は前年の数字を確保しているが、必要以外の商品の購入を控えているようであり、販売点数も落ち込んでいる。さらに商品一点当たりの単価の前年割れも発生しており、全体としては変わらない（スーパー）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

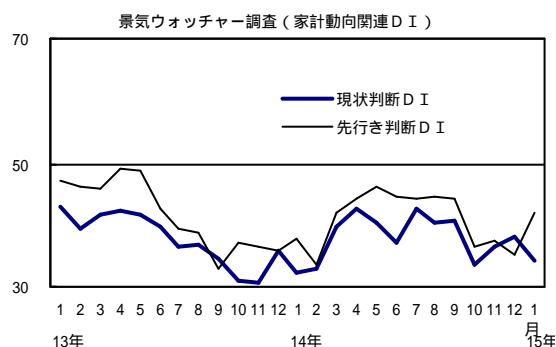
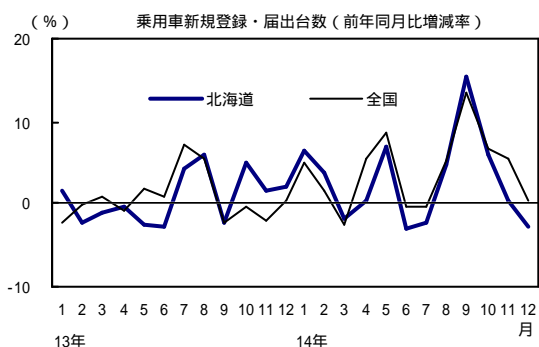


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	2.4	0.6	3.3	3.6
百貨店	1.5	2.6	2.5	3.2
スーパー	3.0	0.7	3.8	3.8
乗用車	1.3	1.1	5.9	1.4
景気ウォッチャー	34.9	40.0	41.1	36.0

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

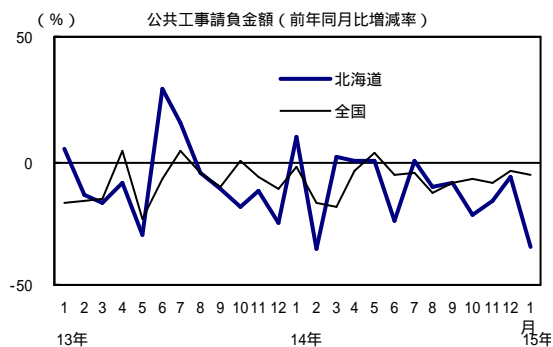
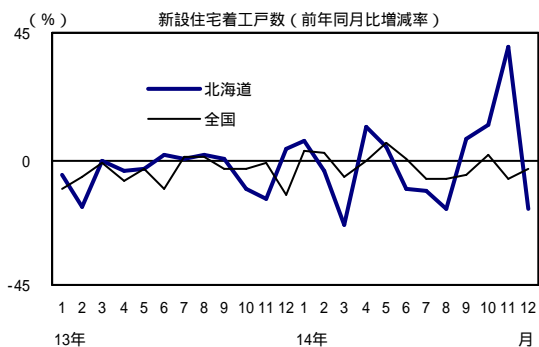
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断DIの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が11月に大きく増加したものの、全体としておおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

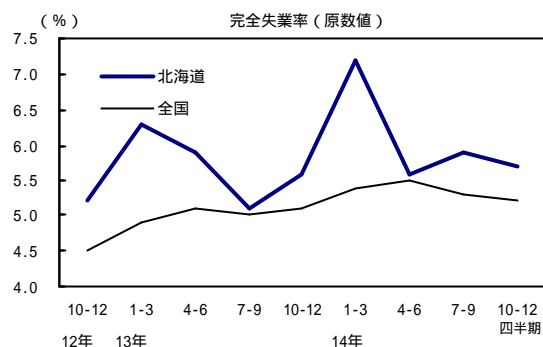
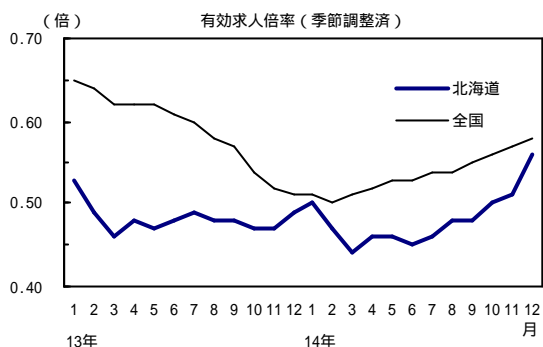


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

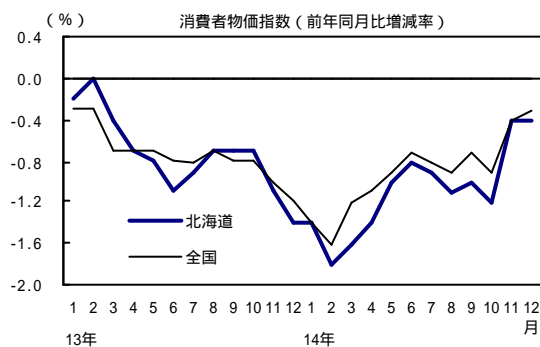
「先行きの景気状況に不透明感が強く、広告出稿に企業がこれまで以上に慎重になってきている(新聞社[求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数は減少しているものの、負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	15年1月
倒産件数	201	186	182	151	67
(前年比)	16.6	2.6	10.8	25.6	0.0
負債総額	887	596	448	1,026	671
(前年比)	25.2	84.5	55.1	66.0	216.9



景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・札幌駅南口商業施設の求人が増えているため、全体としての求人数は前年と変わらないが、逆にそれを除くと前年と比べて求人数は減少し始めている(求人情報誌制作会社)。

<先行き>

・海外旅行や遠距離の国内旅行から、道内の温泉宿泊など、単価の安い商品にシフトしているので、販売額の伸びが全く期待できない(旅行代理店)。

